強度行動障害の理解

・ 障 害 特 性 の 理 解

この時間で学ぶこと

- 関わる側の特性理解の不足による「環境面が整っていない状況」が、強度行動障害のリスクを高める要因となることがあります。

- 知的障害の程度が中度～最重度であり、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害（以下、自閉症と記す）の特徴が強い人たちが、強度行動障害の状態になりやすいという現状があります。したがって、自閉症の方々の特性を理解しておくことが重要です。

この時間の流れ

講義　　動画視聴

①なぜ自閉症の特性を学ぶのか

②自閉症について

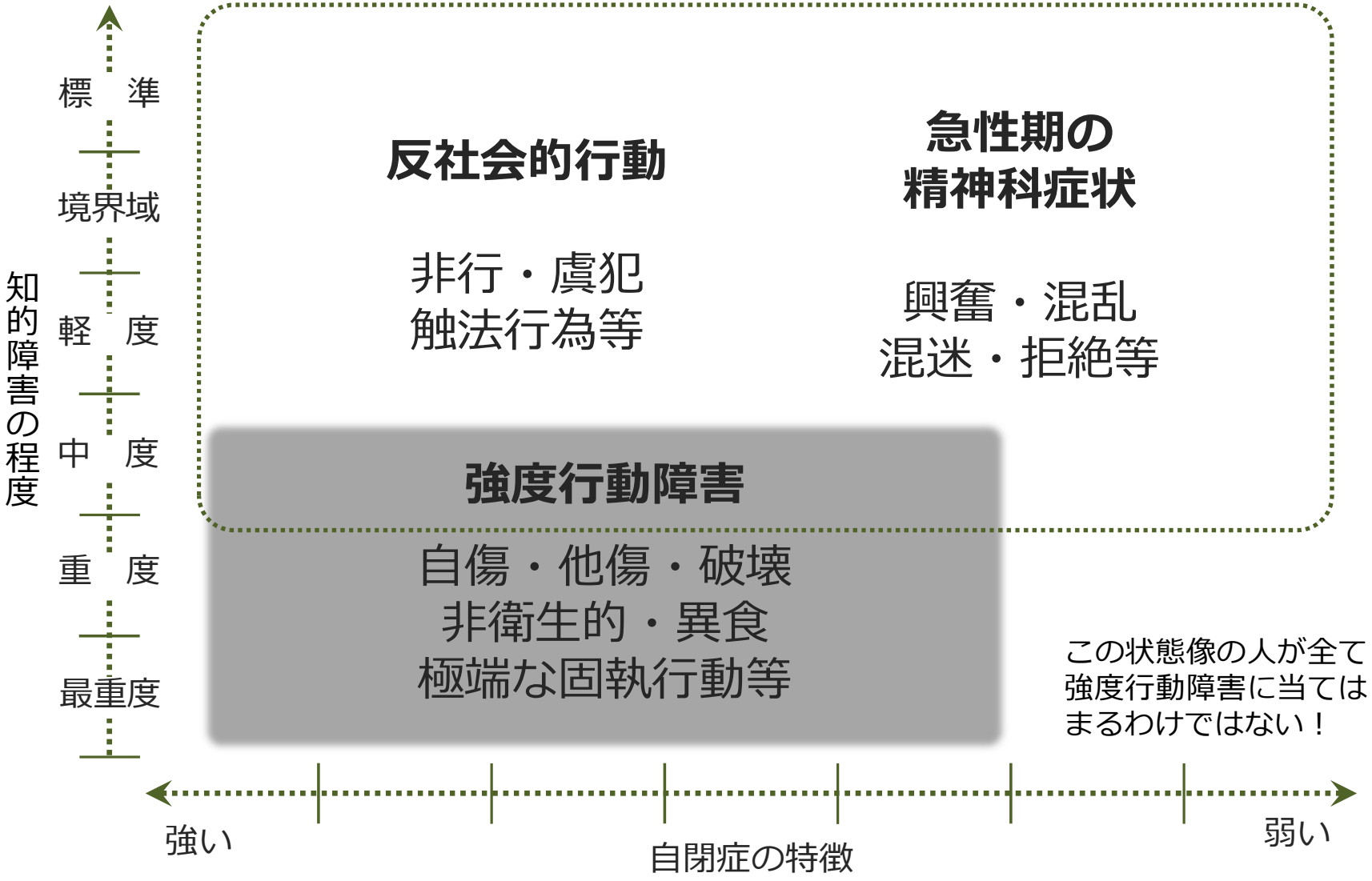
③自閉症の特性を整理する

④学びと肯定的理解の重要性

⑤知的障害および精神障害について

①なぜ自閉症の特性を学ぶのか

強度行動障害になりやすいのは



平成30年度　強度行動障害支援者養成研修基礎研修資料より

強度行動障害と自閉症の関連性が高い
と言われています。

したがって、
強度行動障害への支援を学ぶためには、
まず自閉症のことを知ることが大切です。

強度行動障害に関する調査結果①

岡山県が実施した2019 年度 強度行動障害に関する
実態調査報告書より

- 療育手帳所持者の２％が強度行動障害

→ちなみに、強度行動障害リーフレット（平成25 年度厚生労働省）によれば、推計値として、強度行動障害得点10点以上の人が療育手帳所持者の概ね１％程度（全国で約8000人）あるとしている。

強度行動障害に関する調査結果②

岡山県が実施した2019 年度 強度行動障害に関する
実態調査報告書より

- 知的障害あり（96.6%）、自閉症あり（52.6%）
- 知的障害と自閉症を併せ持つ人は50.8%

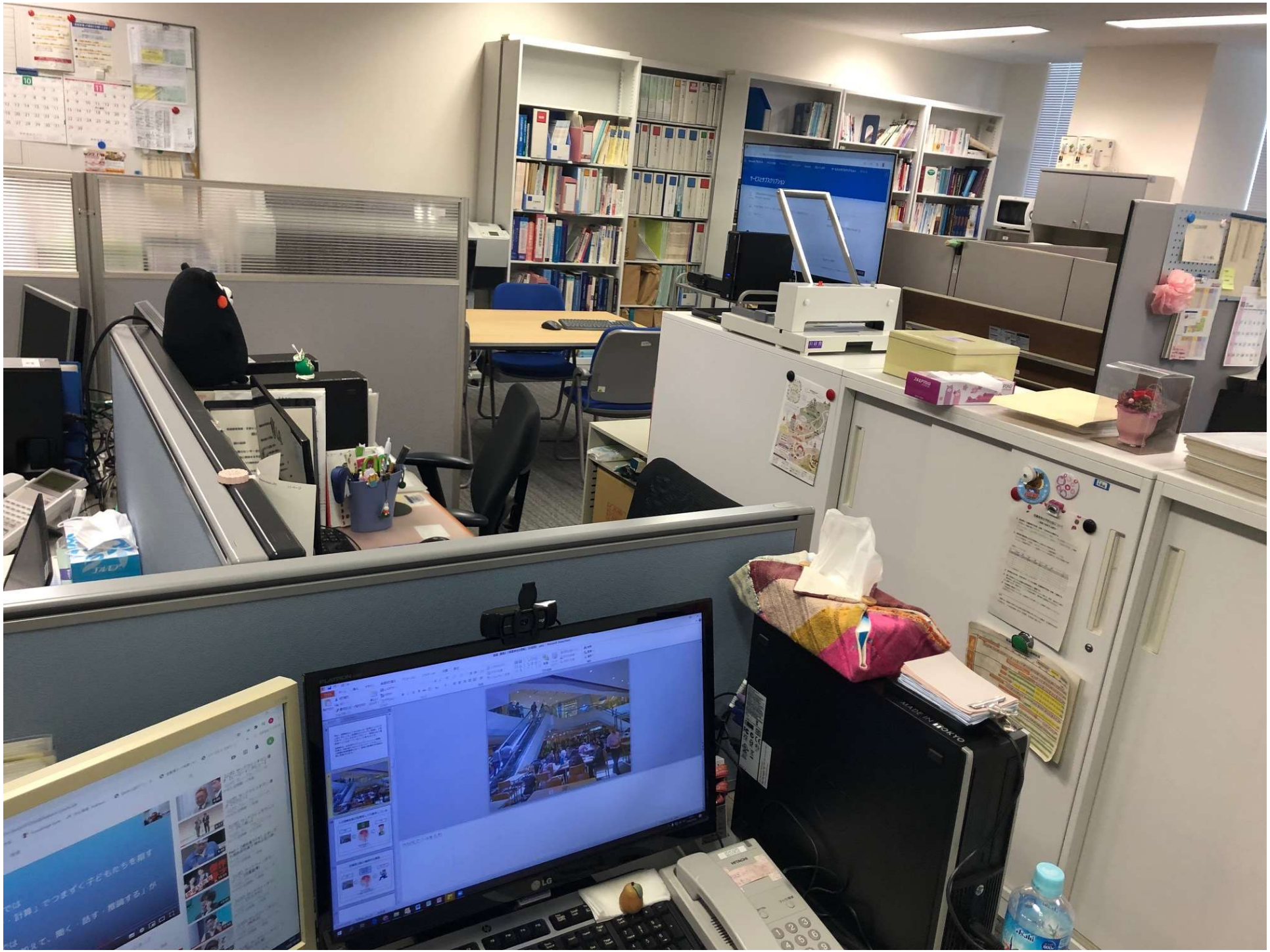
→強度行動障害リーフレット（平成25年度厚生労働省）には「強度行動障害になりやすいのは、重度・最重度の知的障害があったり、自閉症の特徴が強い『コミュニケーションが苦手な人』です」という記載がある。

- 強度行動障害がある人を支援している機関は、
障害者支援施設：77.1%、生活介護事業所：50.0%
就労継続支援Ｂ型事業所：4.2%、
支援学校：33.3%、精神科医療機関：44.4%

②自閉症について

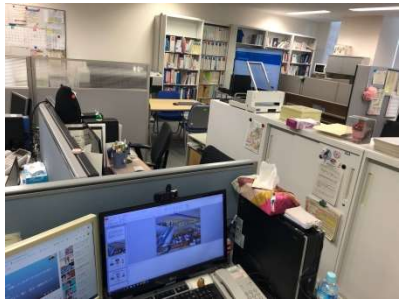
- 現在、自閉症のことを正式には「自閉スペクトラム症」もしくは「自閉症スペクトラム障害」と呼びます。いろいろなタイプがいて、境目のない連続体として広がっているという考え方です。

- 自閉症は、社会性やコミュニケーションの困難、想像力（目の前にないことをイメージすること）の困難が診断基準となり、感覚の特異性も診断の際に考慮されます。



人は情報を脳で処理をして行動をしている

情報



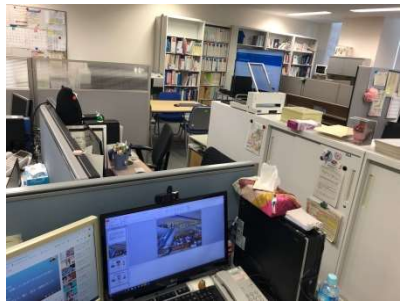
認知
認識
理解

定型発達の人
（一般人）

行動

自閉症は脳の機能的な障害

情報



認知の違い
認識の違い
理解の違い

行動の違い

非定型発達の人
（発達に特性のある人）

③自閉症の特性を整理する

なぜ、自閉症の特性を整理するのか

自閉症の人たちは社会では少数派です。

その物事のとらえ方は、多くの人たちとは異なります。

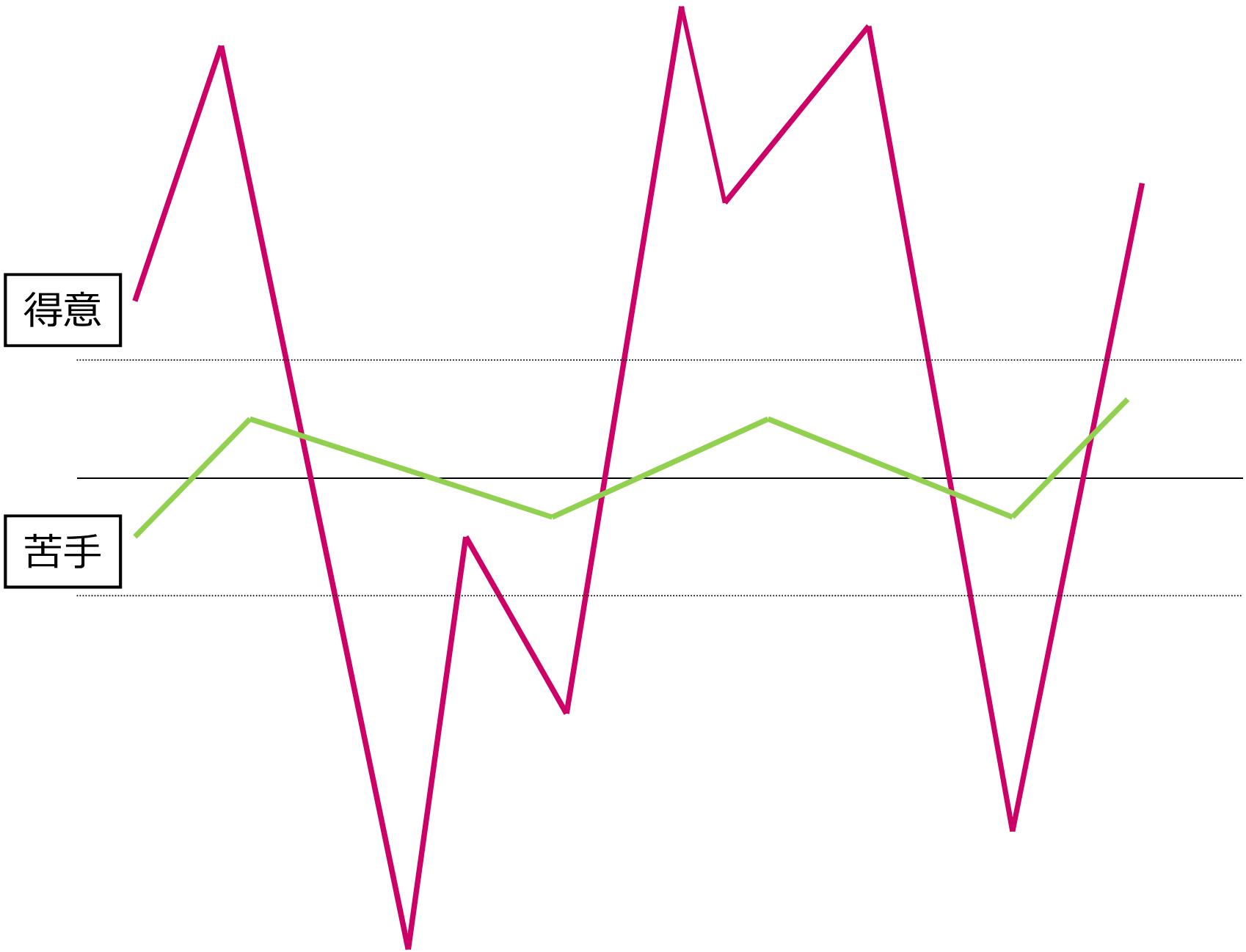
自閉症の人たちがどのような物事のとらえ方をしているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

特性とは

「強み」と「弱み」と言い換えることもできます。

「強み」は支援に生かすもので、
「弱み」は支援者が配慮するところ　と言えます。

それゆえ、特性の把握においては、
「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要です。


得意
苦手

- 自閉症の人たちの
  物事のとらえ方に合わせた支援をすることで、
  自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、
  強度行動障害という状況に陥ることなく、
  よりよい生活を送ることができます。

- 私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、
  支援の基盤に置く必要があるのです。

ここでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

視点①　社会性の特性

【人や集団との関わりに難しさがある】

・相手への関心が薄い
・相手から期待されていることを理解することが難しい
・相手が見ているものを見て、相手の考えを察することが難しい

【状況の理解が難しい】

・周囲で起こっていることへの関心が薄い
・周囲の様子から期待されていることを理解することが難しい
・見えないものの理解が難しい

☆自分がすべきことが明確であれば、集団への適応が増す。

視点②　コミュニケーションの特性

【理解が難しい】

・話し言葉の理解が難しい
・一度にたくさんのことを理解するのが難しい
・抽象的であいまいな表現の理解が難しい

【発信が難しい】

・話し言葉で伝えることが難しい
・どのようにして伝えたらいいか分からない
・誰に伝えていいか分からない

視点②　コミュニケーションの特性

【やりとりが難しい】

・場面や状況に合わせたコミュニケーションが難しい

・表情や視線などの非言語コミュニケーションが難しい

・やりとりの量が多いと処理が難しい

☆話し言葉だけではない、たとえば目に見えるツールを活用することで、伝達度が増す。

視点③　想像力の特性

※想像力：目の前にないことをイメージする力

【自分で予定を立てることが難しい】

・段取りを適切に組むことが難しい
・なんとなく、だいたいなどのイメージを持ちにくい
・今やることを自分で判断することが難しい

【変化への対応が難しい】

・先の予測をすることが難しい
・臨機応変に判断することが難しい
・自分のやり方から抜け出すことが難しい

視点③　想像力の特性

【物の一部に対する強い興味】

・興味・関心が狭くて強い

・細部が気になり違いに敏感

・少しの違いで大きな不安を感じる

☆目の前に存在する視覚情報があるとわかりやすさが増す。

☆自分が興味・関心のある対象への思いが強みになることも多い。

視点④　感覚の特性

【感覚が過敏または鈍感】

・聴覚の過敏や鈍麻がある
・視覚の過敏や鈍麻がある
・触覚の過敏や鈍麻がある
・嗅覚の過敏や鈍麻がある
・味覚の過敏や鈍麻がある
・前庭覚の特有の感覚がある

☆感覚に関する反応が、心身の状況や調子のバロメーターとなることも多い。

ここで動画を見ます

④学びと肯定的理解の重要性

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、わかったつもりにならないことが大切です。

- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本にいつも立ち返ることはとても重要です。

苦手なことには配慮し、得意なことは活かすのが支援の基本です。

繰り返しになりますが、

得意なことを把握することはとても大切です（苦手と思われていることも「ここまではできる」という見方もできるし、視点を変えれば「強み」になることもあるはずです）。

⑤知的障害および精神障害について

自閉症以外に、

強度行動障害に関連する障害として、

知的障害および精神障害があります。

知的障害の診断基準

（DSM-5では、知的能力障害もしくは知的発達症と表記される）

- 知的機能に制約があること

  IQ70未満が知的障害の目安

  ※知的機能＝言語理解力・論理的思考力・抽象的思考力推理力・記憶力・経験から学習する能力・概念形成能力・知的推理力等

- 適応機能に制約があること

  日常の社会生活を営む上で必要とされる能力や行動に制約がある

- 発達期に生じたものであること

  概ね18歳以前に知的機能の制約と適応機能の制約が始まる

※参考　　DSM-5（精神疾患の分類と診断の手引き）

軽　度　　IQ 50-69
成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当
中　度　　IQ35-49
成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当
重　度　　IQ20-34
成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当
最重度　　IQ 20未満
成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満

※軽度、中度、重度、最重度の区分はICD-10（国際疾病分類）による。

精神障害について

- 統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第五条）

- 精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者（障害者基本法第二条）

- 幻聴、妄想、体感幻覚、感情の平板化、意欲低下、ひきこもりなどの具体症状が現れる。